

シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ 実習		
系 列	実 習		
科 目 名	エンジン整備		
必修・選択	必修科目 ・ 選択科目		
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科		
年次学期・曜日・時限	1年前期 ・ 木～金曜日 ・ 1時限～8時限		
時 限 数	83. 6時限(期末試験を除く)		
担当教員名	入江 正和・八木 孝治・(他1名)		
実務経験	(有) ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるエンジン分解・組付・構造等についての実習を実施する。		
授業の目的	エンジンの分解組付けを通して、装置・部品の名称・構造・役割について実物で確認する。エンジンを円滑に作動させるために必要な装置・部品の搭載位置、並びにそれらの装置・部品の構造機能・役割の理解を深める。		
テキスト	①実習テキスト（学校編集） ②三級自動車整備士（総合）（日本自動車整備振興会連合会 発行）		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回	測定機器の取り扱い1	ノギス、マイクロメータの正しい取扱い、各部の名称及び測定方法について解説する。	①、②
第2回	測定機器の取り扱い2	シクネスゲージ、シリンダゲージの正しい取扱い、各部の名称及び測定方法について解説する。	
第3回	エンジンの分解・見取・組付	ダイハツのエンジンを用いて分解作業を行い、エンジンを構成する装置・部品の構造・役割・取付位置の確認を行う。	①、②
第4回			
第5回			
	ステップ試験（中間試験）	第1回～第5回までの授業内容に関する実技試験	別途課題
第6回	エンジンルームの部品	エンジンルーム内の装置・部品の搭載位置及び構造・機能・役割を実車を参考に確認する。	①、②
第7回			
第8回	冷却装置の構成	冷却装置を構成する各部品の搭載位置・構造・機能を確認する。	①、②
第9回	点火装置の構成	点火装置を構成する各部品の搭載位置・構造・機能を確認する。	①、②
第10回	燃料装置の構成	燃料装置を構成する各部品の搭載位置・構造・機能を確認する。	①、②
第11回	企業講習	企業様の研修センターに出向いて、安全作業についての講義を受ける。	

	ステップ試験（中間試験）	第6回～第11回までの授業内容に関する 実技試験	別途課題
	期末試験	第1回～第11回までの授業内容に関する 実技試験	
到達目標	<p>エンジンを構成する装置・部品の名称・構造・役割を習得すること。</p> <p>エンジンを円滑に作動させるために必要な装置・部品の搭載位置、並びにそれらの装置・部品の構造・機能・役割の理解並びに習得すること。</p>		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	<p>開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。</p> <p>欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。</p>		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">中間試験の点数 30%</p> <p style="margin-left: 40px;">期末試験の点数 40%</p> <p style="margin-left: 40px;">平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="margin-left: 40px;">60～69点＝可、70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点＝可とする。</p>		
成績評価できない 場合の基準	<p>全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。</p>		